

百年の歴史を持つ経験とワールドワイドの情報。
そこから生み出される
クオリティの高さで
お客様の信頼に応えていく

インタビュー Kodak Alaris Japan 株式会社

Kodak alaris

<https://www.kodakalaris.co.jp/>

東京都千代田区神田駿河台2-9 KDX御茶ノ水ビル7F

- ・事業内容：イメージング事業、インフォメーションマネジメント事業
- ・設立：2013年
- ・資本金：2億2,800万円



いつでも優れた方法を見つけ出せると信じて 前に進む新しい企業

コダックアラリスは、1880年米国ニューヨーク州ロチェスター市において、創立されたイーストマンコダック社から2013年に独立分離しました。世界的ブランドを継承し、一般消費者やプロカメラマン向けの撮影、プリントソリューションを提供する「イメージング事業本部」、文書データを記録・保管するソリューションを提供する「インフォメーションマネジメント事業本部」の2つの事業ドメインによるビジネス展開を行っています。

コダックアラリスを一言でいうと、「いつでも優れた方法を見つけ出せると信じて前に進む新しい企業」です。社名に含まれるアラリスはコダックブランドの遺産と伝統を継承しつつ、さらにスピード感をもって機敏に、そして果敢にマーケットのニーズや変化に対応していくことを表しています。

長年のノウハウと時代に合わせて変化をしていく。

業務用の大量処理用のスキャナー販売からスタートし「いかに仕事効率を上げるか、大量データを高品質でやるか」という多くのBPOセンター等が抱える課題解決の為にご利用いただいています。

コダックスキャナーの強みは、歴史の積み重ねによる経験と高品質な画像をキャプチャーできることです。世界的な評価機関であるバイヤーズラボラトリ社 (BLI社) での多くのテスト項目においても他社製品を圧倒し、スキャナー部門の最優秀ラインアップ賞を5年間に4回受賞する『クオリティの高さ』は多くのユーザーから信頼を頂いております。

国際的な評価機関が認めた スキャナー製品とソリューション



BLI SCANNER LINE OF THE YEAR
2016・2017・2018・2020



- BLI PICK AWARD**
- 2019 Outstanding Scanner for SMBs
 - 2019 Outstanding Department Scanner
 - 2018 Outstanding Department Scanner
 - 2017 Outstanding Light Production Scanner
 - 2017 Outstanding Document Capture Solution



- ACHIEVEMENT**
- 2019 Outstanding Achievement in Innovation
 - 2018 Outstanding Achievement in Innovation
 - 2017 Outstanding Achievement in Innovation

バイヤーズラボ (BLI) による最優秀製品賞 (Pick Award) は、過去6ヶ月間のBLIの一連の広範なラボラトリテストにおいて最も優れた性能が評価された製品を認定するものである。

時代の流れと共に「大型⇒中型⇒デスクトップタイプ、ネットワーク」とお客様の需要が変化していき、弊社も製品戦略も徐々に変化しております。

今後はネットワークを使い、アジュール・AWS等のソリューションのプラットフォームに繋げていく展開を考えており、SIerとの協業型ビジネスを増やしていきます。

今まで集中型が多かった所から集中型と分散型が同じくらいの比率になると予想されます。それに加え、AI-OCRとRPAという最先端技術の最適パートナーとして、これからも最強のキャプチャーの入り口を創出し続けていきます。



コダックアラリスジャパン株式会社 代表取締役社長 酒匂 潔氏
※なお、インタビューにあたっては同社のマーケティング担当 兼 オペレーショングループ担当マネジャーである中口 能和氏にも協力いただいた。

時代を経験している人と一緒にマーケット戦略を考える

今回、数年間の脱退期間を経て、再度JIIMAに入会したのは「マイクロフィルムで時代を経験している方々と一緒にマーケット戦略を立てていくことが重要」だと考えたからです。改めてJIIMAでさまざまな勉強をさせて頂きたいと思っております。また、今後もデジタル化の部分でJIIMAの役に立てることがあれば協力したいと考えております。

マイクロの必要性

政府が国を挙げて方針として出されているものは「デジタル化し、クラウドにのせる」ですが、ふとした時に「本当に全部それ

でいいのか?」と思うことがあります。

デジタル化は確かにいろいろな業務で役に立つことがありますが、「ビジネス的な部分はデジタル化、美術等の後世に残していくべきものはマイクロ」とするなど、アナログで後世に残していくことも重要なのではないかと考えます。

このきっかけはマイクロフィルムが今現在も無くなることなく継続して必要とされているからです。デジタルで撮ったものはその場ですぐに確認できるが、あえてカメラフィルムを使うことでしか得られないグレースケール等を改めて評価し、再びフィルムの良さ、メリットを感じている方も増えてきていると感じます。

マイクロフィルムに関して、市場は右肩上がりではないものの、今後も需要はなくならないと思います。マイクロフィルムでしか保存することができないデータを見つけ出せばそれが次の手になるのではないかと考えます。

御社の文書管理診断します！ 文書管理達成度評価・調査ご協力をお願い

「皆さんの組織の文書管理のレベルはどのくらいですか？」

各組織では、内部統制、説明責任など、社会のさまざまな要請にもとづいて文書管理を実践しています。しかし、文書管理のレベルを測る仕組みがなく、これで十分なのか、不足している点は何かを知ることが難しいのが実情だと思えます。

JIIMA文書管理委員会では、そんな疑問を解消し、各部門が正しく文書管理ができているかを診断するサービスを開始しました。貴社組織の現状を回答シートに書き込み送付いただければ、文書管理委員会が診断しお返しします。

将来的にはご提供いただいた情報を元に、日本における組織の文書管理現状をまとめ、その中で各組織がどのレベルに位置づけられるかをわかるようにしたいと考えています。

自社の文書管理に関心がある組織の方々のご利用をお待ちしています。

メリット

- 自社の強みや弱みを明確に把握することができるとともに、取り組むべき方向性も明らかになり、文書管理の改善に結びつけられます。
- 他社のレベルと比較でき、自社の文書管理推進の動機付けになります。
- 一定の時間が経過した後に再評価することにより、自社の改善の度合いを確かめることができます。

詳細は右記URLを参照ください。 https://www.jiima.or.jp/basic/doc_mng/